

西ティモールで医療活動

AMDA医師らが帰国

インドネシアからの独立騒乱で、東ティモールから西ティモールに逃げ込んだ難民を救済していたアジア医師連絡協議会(AMDA)

の医師や看護婦七人が五日、帰国。栄永唯利調整員(39)ら六人が岡山市内で記者会見し「十一月から来年四月までの雨期を迎え、

伝染病が心配。四月を過ぎると、蚊などの発生でマラリアの恐れもある。予断は許されない」などと訴えた。

一行は九月二十四日から二日まで、西ティモールのケファメムナム郊外にあるナエン・難民キャンプ地を中心に医療活動を展開。銃などで撃たれた人はほとんどいかなかったが、マラリアや腸管感染症、肺炎、風邪などの患者九百人の治療にあたった。

西ティモールでの救援活動を報告する栄永調整員(前列左)ら

